

こどもの居場所に関する実態調査報告書(概要)

1 調査の概要

調査報告書の全体版は、

<https://www.pref.kagoshima.jp/ae08/kodomoibasyo-tyousa.html>

(1) 目的

フリースクール等に関する支援の在り方について検討するため、小中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校における長期欠席者及び保護者の支援ニーズやフリースクール等の施設の状態等を把握する。

(2) 調査概要

ア 調査期間

令和6年12月から令和7年2月まで

イ 調査対象者

県内小中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校に在籍している長期欠席者(30日以上)及びその保護者、県内のフリースクール等の子どもの居場所となっている施設

ウ 調査協力者数

① 児童生徒数 555人(小学生 205人, 中学生 283人, 高校生 65人, 無回答 2人)

② 保護者数 676人(小学生 255人, 中学生 345人, 高校生 74人, 無回答 2人)

③ 施設数 37か所

エ 回収率

① 児童生徒 $555/5,302=10.5\%$

② 保護者 $676/5,302=12.7\%$

③ 施設 $37/132=28.0\%$

2 調査結果(児童生徒)(抜粋)

ア 児童生徒の属性

- ① 児童生徒の学年「中学2年生」の割合が最も高く20.7%である。次いで、「中学3年生(17.5%)」、「中学1年生(12.8%)」である。

学年(N=555)	N	%
小学1年生	11	2.0
小学2年生	20	3.6
小学3年生	27	4.9
小学4年生	44	7.9
小学5年生	37	6.7
小学6年生	66	11.9
中学1年生	71	12.8
中学2年生	115	20.7
中学3年生	97	17.5
高校1年生	23	4.1
高校2年生	26	4.7
高校3年生	16	2.9
無回答	2	0.4

- ② 居住する市町村(地域振興局・支庁管内)「鹿児島地域振興局」の割合が最も高く42.2%である。次いで、「始良・伊佐地域振興局(18.6%)」「北薩地域振興局(11.9%)」である。

圏域(N=555)	N	%
鹿児島地域振興局	234	42.2
南薩地域振興局	42	7.6
北薩地域振興局	66	11.9
始良・伊佐地域振興局	103	18.6
大隅地域振興局	50	9.0
熊毛支庁	16	2.9
大島支庁	34	6.1
不明	10	1.8

- ③ 性別

性別(N=555)	N	%
男性(おとこのこ)	239	43.1
女性(おんなのこ)	289	52.1
答えたくない	23	4.1
無回答	4	0.7

イ 学校に行けなくなったきっかけ

児童生徒が、学校に行けなくなったきっかけを、児童生徒に質問した結果、「学校に行こうとすると不安が強くなった」との回答が最も多く55.4%である。次いで、「からだがきつかった」(45.2%)、「先生や学校の人がいやだった」(44.4%)などの回答が多かった。

学校に行けなくなった(行かなくなった)きっかけ (N=531) (複数回答可)	N	%
学校に行こうとすると不安が強くなった(ドキドキして行けなかった)	294	55.4
からだがきつかった(頭が痛い, おなかが痛い, はきけがした など)	240	45.2
先生や学校の人がいやだった(こわいな, 会いたくないな など)	236	44.4
朝起きようとしても起きられなかった	235	44.3
気持ちがおちこんだり, イライラしたりした	213	40.1
自分でもよく分からない	186	35.0
勉強のこと	165	31.1
学校のきまりやまわりの様子のこと(校則, クラス分け など)	140	26.4
学校の中の様子や音, においなどが気になった	121	22.8
友だちと仲良くなれなかったこと(友だちがいない, なじめない など)	116	21.8
いじめやひどいことをされたこと	90	16.9
学校に行かないといけなと思わない	53	10.0
特にきっかけはない	41	7.7

ウ 学校に行けなくなったとき、利用していた施設

学校に行けなくなったとき、利用していた施設について、児童生徒に質問した結果、フリースクール等に「よく行っている」、「ときどき行っている」と回答した割合は、合計で約23%であった。また、いずれの施設にも行っていない児童生徒は、119名(21.4%)であった。

学校に行けなくなったとき、利用していた施設 (N=555)	よく行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない
病院	9.7%	24.9%	19.5%	37.1%
フリースクールや放課後等デイサービス	13.3%	10.1%	5.0%	61.8%
教育支援センター	3.1%	4.3%	4.9%	76.4%
図書館、公民館	2.7%	7.6%	15.1%	64.5%
子ども食堂	0.7%	2.0%	4.0%	82.2%

エ 学校に行けなくなったとき、どのように過ごしていたか

学校に行けなくなったとき、どのように過ごしていたか、児童生徒に質問した結果、「家でゆっくりする」、「動画サイトで動画を見る」、「ゲームをする」などの回答が多かった。

学校に行けなくなったとき、どのように過ごしていたか (N=555)	よくしている	ときどきしている	あまりしていない	していない
家でゆっくりする	76.2%	15.7%	2.7%	0.9%
動画サイトで動画を見る	65.0%	18.4%	5.4%	5.9%
ゲームをする	44.7%	21.3%	12.3%	14.6%
外に出かける	11.4%	35.5%	26.5%	18.4%
家で勉強する	11.2%	29.7%	30.5%	20.0%

3 調査結果(保護者)(抜粋)

ア 保護者の属性

- ① 子どもの学年「中学2年生」の割合が最も高く19.8%である。次いで、「中学3年生(18.0%)」、「中学1年生(13.2%)」である。

学年(N=676)	N	%
小学1年生	10	1.5
小学2年生	24	3.6
小学3年生	31	4.6
小学4年生	53	7.8
小学5年生	56	8.3
小学6年生	81	12.0
中学1年生	89	13.2
中学2年生	134	19.8
中学3年生	122	18.0
高校1年生	27	4.0
高校2年生	32	4.7
高校3年生	15	2.2
無回答	2	0.3

② 子との続柄

続柄(N=676)	N	%
父	42	6.2
母	624	92.3
祖父	0	0.0
祖母	2	0.3
その他	5	0.7
無回答	3	0.4

③ 学校へ行っていない日数

子どもが学校に行っていない日数は「180日以上」が最も多く47.5%、次いで、「20日～60日(20.1%)」である。

日数(N=676)	N	%
20日～60日(※)	136	20.1
60日～90日	89	13.2
90日～120日	54	8.0
120日～180日	55	8.1
180日以上	321	47.5
無回答	21	3.1

※ 調査対象者は、全員、欠席日数30日以上

イ 子どもが学校に行けなくなったとき、あったらよかったと思う支援

相談機関・支援機関を利用していない保護者(146名)に対して、子どもが学校に行けなくなったとき、どのような支援や情報などがあったら良かったと思うか質問した結果、「学校以外の勉強ができる場所の情報提供」、「学校以外の居場所の情報提供」などの回答が多かった。

お子様が学校に行けなくなった（行かなくなった）とき、どのような支援や提案、情報があったらよかったか(N=146)（複数回答可）	N	%
学校以外の勉強ができる場所の情報提供	57	39.0
学校以外の居場所(遊んだり、ひとりで過ごせる場所)の情報提供	50	34.2
学校以外の相談できる場所の情報提供	30	20.5
学校の先生への相談	28	19.2
相談可能な病院の情報提供	24	16.4
保護者同士で悩みを語り合える場	20	13.7
病気や障害等に対する周囲の理解	20	13.7
病気や障害等についての相談・支援	16	11.0
同級生や友だちからの声かけ	14	9.6
保護者の相談場所	12	8.2
スクールカウンセラーへの相談	12	8.2
学校の先生による家庭訪問	10	6.8
スクールソーシャルワーカーへの相談	9	6.2

ウ 施設の利用頻度について

フリースクール等の施設の利用頻度について、保護者に質問した結果、「週1～2回程度」が最も多く55.1%である。次いで、「週5～7回程度」(20.5%)、「週3～4回程度」(15.6%)である。

フリースクール等の利用頻度 (N=205)	(単一回答)	N	%
週1～2回程度		113	55.1
週3～4回程度		32	15.6
週5～7回程度		42	20.5
無回答		18	8.8

4 調査結果(施設)(抜粋)

ア 施設の概況

① 施設の所在地(地域振興局・支庁管内)

圏域(N=37)	N	%
鹿児島地域振興局	14	37.8
南薩地域振興局	3	8.1
北薩地域振興局	1	2.7
始良・伊佐地域振興局	6	16.2
大隅地域振興局	11	29.7
熊毛支庁	1	2.7
大島支庁	1	2.7

③ 施設の常勤職員数

常勤職員数(N=37)	N	%
0名	1	2.7
1~2名	10	27.0
3~4名	9	24.3
5~6名	10	27.0
8名	2	5.4
無回答	5	13.5

② 施設の法人格等

法人格等(N=37)	N	%
NPO法人	9	24.3
株式会社	8	21.6
一般社団法人・一般財団法人	5	13.5
学校法人	1	2.7
個人事業主	3	8.1
その他	11	29.7

④ 施設の在籍人数

在籍人数(N=37)	N	%
10名未満	8	21.6
10名~20名未満	10	27.0
20名~30名未満	8	21.6
30名~50名未満	7	18.9
50名以上	4	10.8

イ 施設の役割

施設の役割をどのように考えているか、施設運営者に質問した結果、「学校、家以外の居場所」、「運動、創作活動、自然体験などの活動の場」などの回答が多かった。

貴施設の役割をどのように考えているか。(N=37) (単一回答)	N	%
学校、家以外の居場所	13	35.1
運動、創作活動、自然体験などの活動の場	8	21.6
対人スキル・生活スキルのトレーニングの場	7	18.9
学習支援・進路相談の場	4	10.8
その他	4	10.8
児童・生徒同士の交流の場	1	2.7
医療・心理的な支援(カウンセリング, 心理検査等)の場	-	-
保護者への支援の場	-	-

ウ 施設の主な活動内容

施設の主な活動内容について、施設運営者に質問した結果、「調理体験」、「芸術・創作活動」、「スポーツ活動」、「居場所の提供」などの回答が多かった。

貴施設の主な活動内容（N=37）（複数回答可）	N	%
調理体験（お菓子づくり, 郷土食づくり など）	30	81.1
芸術・創作活動（音楽, 美術, 工芸 など）	27	73.0
スポーツ活動	27	73.0
居場所の提供	27	73.0
個別の学習	24	64.9
発達障害等の支援	24	64.9
自然体験（自然観察, 農業体験 など）	23	62.2
社会体験（見学, 職場体験 など）	22	59.5
保護者同士の交流の場	19	51.4
地域活動	17	45.9
子どもたちによるミーティング	17	45.9
相談・カウンセリング	15	40.5
宿泊体験	10	27.0
授業形式（講義形式）による学習	8	21.6